

開会のご挨拶



木村 容子 先生

東京女子医科大学附属東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省（国家公務員1種）
英国Oxford大学大学院 修士課程修了
2000年 東海大学医学部（学士入学）卒業
2002年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教
2007年 同研究所 講師
2008年 同研究所 副所長
2010年 同研究所 准教授
2019年 同研究所 教授

日本東洋医学会学術総会のスポンサードシンポジウムとして例年開催しております本シンポジウムは、本年も「漢方エキス製剤の上手な使い方ー困ったときのこの一手ー」をテーマに開催いたします。私がコーディネーターとなって11年目を迎えました。10年を一つの区切りと考えますと、本年は新たな一歩として、初心を忘れずにさらに充実したシンポジウムを目指して進めてまいりたいと思っております。

本シンポジウムは、「明日からの実臨床に役立つシンポジウム」として、二部構成となっております。第一部では「困ったときのこの一手」と題して、各領域の先生方が日常診療でどのようなことで困り、漢方治療を取り入れることで治療成果をあげておられるのか、その具体例をご提示いただき、日常診療における漢方療法の取り入れ方を考えてまいります。

第二部では、「現代の口訣の構築」と題して、今回は加味帰脾湯と十全大補湯を取り上げ、有効例を通じて処方の臨床応用、使用目標、すなわち現代の口訣を導き出します。加味帰脾湯は、2017年開催の本シンポジウムですでに取り上げましたが、本シンポジウムではさらにバージョンアップさせたいと思います。

本シンポジウムが、先生方の明日からの実臨床に役立つことを願っております。